

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：40118

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23720425

研究課題名(和文)生産現場における人とモノの関係性にみる社会主義経験の多様性と普遍性

研究課題名(英文)Variety and uniformity of socialism experiences: Examining relationship between people and things in the production process

研究代表者

風戸 真理(Kazato, Mari)

北星学園大学短期大学部・その他部局等・講師

研究者番号：90452292

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文):モンゴルをはじめとするポスト社会主義諸地域において、ローカルな自然・社会に根ざしたモノの生産・流通・消費のあり方とそのグローバルな変化を、国家の影響・社会変化・人びとの移動に注目して検討し、以下の2点が明らかになった。

1 移動式住居「ゲル」・フェルト・銀製品・食べ物は、製作技術・ローカルな社会関係・国家の政策の3つが絡むことで20世紀を通して変化してきた。

2 モンゴル国では20世紀以降に都市化が進んできたが、人びとのライフコースは草原と都市を往還するものであった。ゲルは、空間移動のほか、時間とともにサイズを拡大・縮小できる柔軟性を特徴とし、人びとの移動性と定住地の居住性を支えていた。

研究成果の概要(英文):This research examined the method of production, the circulation, the consumption, and the global change of things which took root in the local culture and the natural environment in post-socialist countries such as Mongolia, with attention to the national policies, the social change, and people's mobility. As a result, the following were made clear.

[1] The mobile residence, ger, felt, silver products, and food have changed through the 20th and 21st centuries, which was influenced by unique technologies, local relationships, and national policies.

[2] Though urbanization advanced in Mongolia after the 20th century, the life course of the people included living in both rural and urban areas. A ger has the characteristic of a flexibility to be extended or reduced in size along with time. The ger supported people's mobility and comfortable life in both rural and urban areas.

研究分野：文化人類学

キーワード：ポスト社会主義社会 モンゴル 物質文化 社会変化 畜産物 フェルト 乳製品 移動式住居ゲル

1. 研究開始当初の背景

社会主義における生産の理念は工業モデルに依拠し、分業と生産規模の拡大によって生産性の向上を目指すものであった。

だが報告者の研究開始当初までの研究からは、モンゴルの牧畜においては、この理念は全面的に適用されていたわけではなく、例外的な領域が制度的に用意されていた。たとえば、一部の家畜は「商品」にとどまらず、ときに「個別化」[Kopytoff 1986] され、牧民の過去の記憶を喚起する手がかりとなるなど多義的な意味を担っていた。社会主義期にも、移行期にも、モンゴルの牧畜の中心的な領域は商品経済システムに覆われていたが、周縁では家畜と人間のあいだには人格的な関係が生じていたのである [風戸 2006]

そのような、商品世界からはみ出した家畜と人間との関係史は、人々の語りを収集することで再構成されたもうひとつの歴史であり、これまでに「書かれなかった」社会主義のもうひとつの側面である。社会主義社会の描き方については、C・ハンは、これまでの社会主義社会の表象は一枚岩的であったと批判し、ポスト社会主義の諸社会について、その個別社会における社会主義期および移行期の経験を土着の文脈に位置づけることで、その多様性とリアリティを明らかにできると提案している [Hann 2002]

これこれに対して本研究は、モノに注目してハンの提案を実践するものである。すなわち、ポスト社会主義の諸社会におけるモノ生産の場において、生産者である人間と生産されるモノとの関係にどのような関係が取り結ばれてきたのかを、革命以前 / 社会主義期 / 体制変化後の各時期を比較検討する。そのことを通して、社会主義が異なる国家・地域・生産現場にどのような普遍的な影響を与えたのか、そしてまた、個別の国家・地域・生産現場において社会主義の

理念がどのようにローカライズされてきたのか、を明らかにする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ポスト社会主義の諸社会におけるモノの生産・流通・消費の場における人間とモノの関係を、マクロな政治経済と関連づけながら検討することを通して、ふつうの人びとの視点による多声的な社会史を記述することである。とくに人びとの日常生活の経験、すなわち生産現場における人とモノの関係に注目し、社会主義の諸社会の内部での文化的な多様性について解明することをめざす。

3. 研究の方法

社会主義化をはじめとする国家の政治経済の変化が、モノの生産の現場における人とモノの関係に与えた影響を明らかにするため、次の2点を検討した。同じ国家の内部での、異なる業種の生産現場での経験を比較検討した。同種産業の同じモノに注目し、異なる国家・地域での経験を比較し、差異と共通性を抽出した。

とくに注目したモノは、羊毛製品・移動式住居「ゲル」・銀製品・乳製品、である。調査地域は、これまで調査研究をおこなってきたモンゴルに加え、カザフスタン・キルギスタンなどを対象とした。

(1) 羊毛製品

モンゴル国ウムヌゴビ県でフィールドワークをおこない、フェルトの製作や糸紡ぎの技法に関する聞き取り・映像記録をおこなった。

モンゴル国の首都ウランバートルにおいて、主に外国人観光客向けのフェルト小物売る小売店で、ビジネスの季節性、人気商品のデザイン、フェアトレードに関わるモンゴル人グループの特質に関する聞き取りをおこなった。

キルギス共和国において、観光客向けのフェルト小物の小売状況・製作体験のあり方を観察した。

(2) 移動式住居「ゲル」と銀製品

モンゴル国ホブド県でフィールドワークをおこない、ゲルの購入・使用・メンテナンス・継承のあり方について聞き取りをおこなった。

キルギス共和国の観光業・輸出産業としての移動式住居生産の場を観察し、生産技術について聞き取りをおこなった。

ウランバートルの職人街において、その規模やそこで活動する職人の職種について総合的な調査をおこなった。

ウランバートルの一つの銀鍛冶工房で定点観察をおこない、顧客と職人とのあいだのコミュニケーションを分析することで、鍛冶師に対するニーズと対価の決定過程を分析した。

(3) 乳製品と食べ物

ウランバートル市内において、スーパーマーケットで売られている乳製品の種類と、大衆食堂のメニューに含まれる畜産物について調査した。

カザフスタン共和国と日本において、乳製品の生産および都市と地方における小売の状況を調査した。

(4) 社会の現代的な変化

20世紀以降のモンゴル人の生活空間と人生経験をミクロな視点で分析するため、一親族集団につらなる4世代・26人の、草原と都市にまたがる移動と生活の経験に関する聞き取りをおこなった。

(5) 異なる地域・時代との比較

以上の成果を異なる地域・時代と比較して位置づけるため、モノと人間の関係をめぐる

シンポジウムとワークショップを企画・開催した。

・ワークショップ「アジアにおけるグローバリゼーション：衣食住から社会史を記述する」

現代モンゴルにおける人とモノの関係の事例をアジアの他地域と比較した。

・シンポジウム「畜産物の流通にみるモンゴル高原のグローバリゼーション」

現代モンゴルにおける畜産物（肉・毛・乳）の流通のあり方を、人類学と歴史学の学際的な方法で検討し、モンゴルの物流の特徴を東北アジアおよびユーラシア諸地域と比較した。

4. 研究成果

上記(1)～(5)に関して以下のような結果を得た。

(1) 羊毛製品

モンゴル独自のフェルト製作技術の意味とその社会的な背景を検討したところ、モンゴルのフェルト製作においては「母フェルト」という半製品が不可欠であること、母フェルトは巨大フェルトを大量に複製する合理的な手段であり、かつフェルト製作に関する在来知識が家族や世帯間で継承される手がかりとなっていることがわかった。つまり、モノ生産における「道具」の意味とローカルな社会との関係を明らかにした。

(2) 移動式住居「ゲル」と銀製品

モンゴルのゲルは、社会主義期以前/社会主義期/体制変化後という時代の変化と、個人のライフサイクルに応じて、その素材・使い方・補修のしかたが変わっていた。またゲルの工場生産に関しては、社会主義期以降、国家規格によってその仕様が詳細に定められた。しかしながら、ゲルは、移動性の高さに加えて、素材・サイズ・使い方を、使い手の

都合や時代状況に合わせて変えられるという自在性を特長としていた。

(3) 乳製品と食べ物

乳製品については、カザフスタンのスーパーマーケットおよび産地直送販売所で売られている乳製品の種類は約250～560種類で、日本のスーパーマーケット(約250種類)よりも多かった。一方、モンゴルのスーパーマーケットでは乳製品の種類が少なめであった。モンゴルの食事には外国の影響が大きいが、草原では現在も畜産物に依存した食生活の論理と食事メニューが卓越していた。

(4) 社会の現代的な変化

20世紀モンゴル国の工業化・人口増加・都市化のもとでの、人びとの居所の選択の指向性を以下のとおり明らかにした。

人びとは地方から都市を一方向的に指向しているのではなく、むしろ彼らのライフコース(個人の一生)とファミリー・ヒストリー(4世代の100年史)は両空間を往還するものであった。また、人びとは夏に草原の年長者のもとに集まり、自然に埋め込まれた生活に親しみ、家畜生産技術を習得し、地縁・血縁にもとづく社会関係を構築していた。

このように、モンゴルの都市とその近郊に暮らすモンゴル人が、ノマド的な行動様式によって現代的な諸変化に対応してきたことを示した。加えて、カザフスタンにおいて、職業選択を中心とする人生選択に焦点を当て、社会主義期とポスト社会主義期の労働と生活のあり方およびその理念を検討した。

(5) 結論 | 異なる地域・時代との比較

以上、モンゴル国とカザフスタン共和国、キルギス共和国におけるモノの生産・流通・消費の場における人間とモノの関係を、国家の影響・社会変化・人びとの移動に注目して検討した。物質文化のあり方は、独自の製作技術・生産関係が埋めこまれたローカルな社

会関係・マクロな制度の3つが絡みあうことにより、時代を通して変化してきた。その一方で、物質文化は当該社会の特徴を支えており、また社会のあり方を具現化するものでもあった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

1. 風戸真理・本間香貴(2015)「カンボジアの農業における農薬使用の現状 水田稲作農家と消費者の聞き取り調査」『北星学園大学短期大学部 北星論集』13、47-59。
2. 風戸真理(2015)「乳製品の多様性と消費者の行動 カザフスタンと北海道の事例より」『北星学園大学短期大学部 北星論集』13、61-71。
3. 風戸真理(2014)「モンゴル遊牧民候補は夏につくられる」『生態人類学会ニュースレター』20:42-29。

[学会発表](計5件)

1. KAZATO, M. (2014) Do Mongolian nomads transform into city dwellers?: From the life course and family history, IUAES 2014, the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, 17 May, Makuhari-messe, Makuhari, Japan.
2. KAZATO, M. (2014) "Mongolian potential pastoralists formed in summer", IIAS, the International Institute for Asian Studies, August 8, Ulaanbaatar University, Ulaanbaatar, Mongolia.
3. KAZATO, M. (2014) "Mongolian dwellings through life stages: Variability of sizes of Gers", Symposium "Eurasian Nomadic

Pastoralism: History, Culture, Environment”, Jointly organized by Center for Northeast Asian Studies, Tohoku University and others, September 5, Mongolian Academy of Sciences (MAS), Ulaanbaatar, Mongolia.

4. Kazato, M. (2014) Orchin ueiin zaluus ba Mongol ger (招待講演「現代の若者とゲル」)、The National University of Mongolia、September 8, Ulaanbaatar.
5. 風戸真理(2015)「現代モンゴルの食事：草原と都市」(招待講演)北海道立北方民族博物館・企画講演、北海道立北方民族博物館、2015年2月21日。

〔図書〕(計1件)

1. 風戸真理(2015)「時空を超えて暮らしを包む住居：モンゴル・ゲルのフレキシビリティ」佐藤知久・比嘉夏子・梶丸岳編『世界の手触り-フィールド哲学入門』ナカニシヤ出版 pp.109-127。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕(計2件)

1. シンポジウムの企画代表 | 東北大学東北アジア研究センター共同研究企画シンポジウム『畜産物の流通にみるモンゴル高原のグローバリゼーション』、2015年3月7日、東北大学東北アジア研究センター。
2. ワークショップの企画代表 | 科研費90452292「生産現場における人とモノの関係性にみる社会主義経験の多様性と普遍性」(研究代表：風戸真理)、平成23年度～平成26年度(若手B)によるワークショップ『アジアにおけるグローバリゼーション：衣食住から社会史を記述する』2015年3月19日～20日、北星学園大学。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

風戸真理 (KAZATO MARI)

北星学園大学・短期大学部・専任講師

研究者番号：90452292